

第35回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ (ミキハウスカップ東京2025)

実施報告書

実行委員長 塩野崎英二

はじめに

2025年9月6日・7日、第35回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ（ミキハウスカップ東京2025）は3年ぶりに東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所にて開催致しました。

今大会はミキハウスさまご了解の下、初めての二日間開催と致しました。

三起商行株式会社様には永年に亘り本大会に多大なご支援を頂いており感謝申し上げます。

また、一般社団法人東京都セーリング連盟様には大会の運営のみならず早い段階からの綿密な打ち合わせに参加いただき、おかげさまで二日間を円滑に運ぶことが出来ました。

NPO法人マリンプレイス東京若洲ヨット訓練所様には快くご協力頂きお礼申し上げます。

今回は7月末に開催した国際交流競技会から一か月後の開催とあってか、参加は9チーム、54名で種目もOPクラス初級・上級に止まりました。

しかしながら、56名の指導者・保護者と60名の役員とが一緒になって炎天下の大会を大いに盛り上げることが出来ました。

以下に大会の様子を報告させていただきます。



NPO法人マリンプレイス東京若洲ヨット訓練所

開会式

6日8:30より開会式を行いました。

お忙しい中参加頂いた石原伸晃会長から選手の皆さんに暑さに負けないで日頃の練習の成果を十分に発揮して下さいと激励の挨拶を頂き、ミキハウス社の須長さまからも激励の言葉がありました。

引き続きレース運営を統括いただいたレース委員長の山本俊貴東京都セーリング連盟理事長から全参加者に対して競技運営上の注意を説明頂き、そのあとA海面、B海面ごとのスキップーズミーティングをおこない競技に入りました。



石原会長あいさつ



ミキハウス須長さまあいさつ



山本レース委員長



初級者スキッパーズミーティング



上級者スキッパーズミーティング

B 海面レース報告 田中一光レース副委員長

OP級初級者クラス

海面：若洲ヨット訓練所のハーバーボンド内

第1日目「9月6日(土)」(予選レース)

天候は、晴れ、風向150°を風軸とし、風速4-6ktの微風のもと、参加艇23艇を「黄色組：6艇」、「緑組：6艇」、「赤組：6艇」、「紫組：5艇」の4組に組分けし、各2組で1レースとし、総当たり制で6レースの予選レースを実施。(各組にとっては、3レースの実施となる)

予選第1レースは、「黄色組・赤組」で10:30:00にスタートし、レース終了は、10:41:15に終了。その後、昼食休憩を挿み順次レースを実施し、最終予選第6レースの終了時刻14:14:24をもって、第1日目の予選レースは終了。

ボンド内の狭い限られた海面内での短いレグのレースなり、各レースとも15分前後のレースとなった。ボンド内のためか、風が頻繁にシフトし、風道もコロコロと変わるので、各艇とも風を掴むのに苦労していた。初級者の中でもセーリング経験時間の違いで各人のレベルに差があり、それがレース成績にも表れていたようである。

予選6レース(各組にとっては、3レース)の結果で、上位から「ゴールドクラス:7艇」、「シルバークラス:8艇」、「ブロンズクラス:8艇」にクラス分け、翌日の決勝レースに備えた。

第2日目「9月7日(日)」(決勝レース)

天候は、昨日に続き晴れ、風向180°を風軸とし、風速は昨日よりやや強まり、10~12ktの順風でのコンディションのもとでの各レース10分前後の決勝レースとなったが、第1マーク(上マーク)がハーバー近くの岸壁近くだったため、ブランケットとなり、上マーク付近では各艇とも風を掴むのに苦労していた。

決勝レースは、「ブロンズクラス」の8艇から開始し、第1レースは、09:55:00にスタート、10:05:35に第1レース終了。第1レースの成績上位2艇を「シルバークラス」の8艇に加え、計10艇で第2レースは、10:35:00にスタート、10:46:59に終了。第2レースの成績上位3艇を「ゴールドクラス」の7艇に加え、計10艇で「ゴールドクラス」の決勝2レースを実施。第1レースは、11:20:00にスタート、11:28:01に終了。続く第2レースのスタートは、11:40:00にスタート、11:49:01に終了。

「ゴールドクラス」2レースのレース成績にて、1位優勝から10位まで成績順位が確定。1位から6位までを入賞として、1位から3位は賞状とメダルと特別協賛会社、ミキハウス様からの副賞を、また、4位から6位は賞状とミキハウス様からの副賞を授与した。

「ゴールドクラス」上位入賞者には、更に研鑽を積み、次回は上級者クラスに挑戦することを期待したい。



B 海面本部船



スタート



上マーク回航



トップ艇フィニッシュ

A 海面レース報告 谷口弘次レース副委員長

OP 級上級者クラス

参加艇は OP 級上級クラスは 31 艇

【第 1 レース】(1 日目)

予告信号予定を 9 時 55 分に変更して出艇しましたが、風向が南に回り始めていて定まらず 10 時 05 分の予告信号となりました。スタートでは引き潮と前日までの大雨による荒川から流れで後方から押し出される影響が心配されましたが、3 艇の UFD でスタートしました。コース設定に対し若干右に振れるレースでありましたが、風向だけでなく潮流を意識した帆走をできた選手が上位を占めていたようです。徐々に風が上がり 32 分から 40 分の短めのレース時間で第 1 レースが終了しました。

【第 2 レース】

コースを 170° に、距離も 750m に伸ばしてスタート。後方からの流れに気を付けていましたが、2 艇の UFD がありました。まだ風が安定しておらず細かい振れ、時おり風速が落ちる様子でした。

44 分から 51 分のレース時間で第 2 レースを終えました。

【第 3 レース】

第 2 レースと同じコース設定で 12 時 40 分にスタートしました。

後方からの流れが落ち着き UFD はなく、風速は若干弱くなったものの安定して 5kt あり、41 分から 48 分でスタートした全艇がフィニッシュ。最も差がつきにくい風域でした。

【第 4 レース】

風速が上がり、この海面でこの時期の南風の風向に入ってきましたのでコースを 190° に変更スタート。レース中は 200° の風がちらほらありました。徐々に選手間のレベル差がタイムに出始め、40 分から 51 分でレース終了となりました。

終日、気温の高い一日でしたが、各選手が水分補給と食事をしっかりと取っていましたのでスムーズに 4 レースを終了することができました。

【第 5 レース】(2 日目)

朝からしっかりと風が吹いていましたが、ちょっと強めの 13kt オーバー。選手がレース海面にたどり着くのを待ちながら、190° から 200° にコースを変更し、1,000m でスタート。引

き潮ではありましたが、各選手が前日の経験を生かしてオールクリアのスタート。この風速になってくると帆走が難しい選手が出始めます。1艇のRETとトップフィニッシュ39分から1艇のDNFでレース終了となりました。

【第6レース】

第5レースと同じコース設定。風速が上がってきてスタートラインも若干下がり気味でのスタートとなりました。艀装の不備があった選手もあり3艇のRETが出ました。風速は14.5ktでしたが、一時ブローで16kt超えもありました。トップフィニッシュ39分から3艇のDNFでレース終了となりました。

【第7レース】

風速も上がり18kt、一時ブローで20kt超えになりました。満ち潮と風が重なりうねりも大きく1.5m程度、コース設定は同じでしたが4艇のRETが出て、46分から14艇のDNFでレース終了し、最終レースはサバイバルレースになりました。

全レースを通じて、選手皆さんがそれぞれの技量で一生懸命にフィニッシュラインを目指す姿が印象に残りました。



穏やかだった初日のA海面のスタート



初日の下マーク





一転強風となった二日目の A 海面のスタート

交流会

今大会はミキハウスカップ東京では初めての二日間の開催となり、1日目レース終了後15:30頃より新艇庫前に4張りのテントを設置して選手、コーチ、保護者、役員が一同に会して軽い飲食を取りながら交流会を行いました。

交流会は B 海面で陸上本部を務めて頂いた筒井さんが進行役として初日 A・B 海面のレースでトップフィニッシュしたジュニアに感想を聞きました。

当日は第7回のミキハウスカップで優勝を経験し、高校・大学に入っても華々しい活躍をされた神谷航路さんをゲストとして参加頂き、ジュニア選手からの質問にも答えて頂いたのですが、さすがに上級者のジュニアからはスタート時の悩みなど鋭い質問が出されていました。



交流会



ゲストの神谷さん（左）と司会の筒井さん



ジュニアの質問に答える神谷さん

成績

クラブ対抗レース

- 優勝 葉山町セーリング協会
- 2位 夢の島ヨットクラブ
- 3位 江東区立小中学校セーリング部

OP 級初級者クラス

- 優勝 住田 穂波 葉山町セーリング協会
- 2位 田淵 隼矢 葉山町セーリング協会
- 3位 長部 立希 葉山町セーリング協会
- 4位 酒井 泰地 千葉ヨットビルダーズクラブジュニア
- 5位 坂上 雄誠 葉山町セーリング協会
- 6位 山村 晟 夢の島ヨットクラブ

OP 級上級者クラス

- 優勝 中村 海翔 夢の島ヨットクラブ
- 2位 今井 晴也 葉山町セーリング協会
- 3位 伊藤 照真 江東区立小中学校セーリング部
- 4位 森田 晴翔 葉山町セーリング協会

5位 平野 萌生 葉山町セーリング協会

6位 田淵 勇帆 千葉ヨットビルダーズクラブジュニア

表彰式

伊藤雅宣レガッタ副会長から酷暑の中大会を通じて頑張った選手たちへの賞賛と保護者の皆さんに感謝の挨拶がありました。

続いて2日間海上でレースを見守って頂いたプロテスト委員長斉藤英明さんからレース講評を頂きました。

2日間 4~18kt の風が吹きました。この中で普段の練習の成果を発揮して上位に入った選手もいれば、普段の練習の成果を発揮しきれなくて、上位に入れなかった選手もいました。

審問要求書を1件受付しました。また付則Pのコールが2件ありました。

審問要求書は「プロテスト」の声掛けがなかったので、要件不備で抗議は無効であり、審問を打ち切りました。プロテストの第1条件は、先ず「抗議」プロテスト」の声をかける事を忘れないようにと注意がありました。

付則Pのコールはスタート直前の位置取りのためのスカリングと、クローズホールドでのロッキングでした。どちらも連続して継続的に行っていました。

ヨットレースはミスをするとう順位を落とします。スタートやタッキングや風の振れの読みなど、今回ミスしたことは次回には絶対にしないような練習をこれからも心掛けてください。2日間お疲れさまでした。



斎藤プロテスト委員長

表彰：山本俊貴レース委員長からクラブ対抗レース、OP級初級者クラス、OP級上級者クラスの順に成績が発表されました。

初級者クラス優勝の住田穂波選手、上級者クラス優勝の中村海翔選手にはミキハウス社光川彰夫取締役社長室長からミキハウスカップが授与され、クラス別上位6位までの選手にはJJYU賞状とミキハウス社 須長由季さんから賞品が授与されました。

また、今回で35回を重ねてきたジュニアヨット国際親善東京レガッタについて初回立ち上げに関わったJJYU 桑原啓三顧問より「国際親善」命名の経緯の話があり、今大会に参加の外

国人ジュニア2名にミキハウス社から記念品が渡されました。

ミキハウス社の光川様と須長様の打合せで、OP級初級者クラスにもう少し賞品を渡す案は無いかとの相談があり、3名を選出することになりました。

B海面決勝のブロンズクラス1位の中村海俐さん（夢の島ヨットクラブ）、シルバークラス1位の中村翼さん（江東区立小中学校セーリング部）、そして初日は2位、3位、1位、2位と好成績でしたが、風速が強くなった2日目は体力的にか成績が振るわなかった今井 創也さん（葉山町セーリングクラブ）に今後の健闘を願う激励として贈ることで推薦しました。



初級者クラス優勝の住田穂波選手



上級者クラス優勝の中村海翔選手



桑原顧問



外国人ジュニアにミキハウス社から記念品



OP 級初級者上位入賞のみなさん



OP 級上級者上位入賞のみなさん



クラブ対抗優勝の葉山町セーリング協会



ミキハウスさまからの激励賞



本年は過去に例を見ない酷暑の夏の大会になりましたので JJYU では小熊啓太医事委員に2日間にわたり待機頂きましたが、皆様の配慮により体調不良を訴える選手は一人もいませんでした。

最後に本大会にご協力頂いた全ての関係者に感謝を申し上げるとともに、来年の大会がより多くの参加者を得て充実したものとなるようご協力を重ねてお願いして、報告とさせていただきます。

以上